

教職員・院生版生協だより

# かけはし

No. 264

2006年 3・4月号

発行 名大生協理事会

編集 名大生協教職員委員会

☎ 学内線 7540, 学外線 781-1111



「能力を開発することで面白さは生まれる」と語る  
杉山寛行文学研究科長

名大生協のホームページ (URL) <http://www.nucoop.jp/>  
教職員委員会への e-mail あて先 [kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp](mailto:kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp)

## も く じ

主張「卒業生を元気に送り出し、新入生を温かく迎えよう」---	3
【インタビュー】	
学問の魅力、学生、生協への期待—トップインタビュー—	
杉山寛行文学研究科長-----	4
【企画案内】	
マルセパン工場見学のご案内-----	14
平和ミニツアー第一弾！	
豊川海軍工廠爆撃と跡地調査-----	15
【報告】	
名古屋大学平和憲章制定 19 周年記念企画・憲法講演会	
「今なぜ、憲法・教育基本法を変えるのか？」-----	16
「映像で語るわたしたちの日本国憲法」を振り返って-----	18
ハプニング続出の産地見学、でも楽しめました-----	19
初心・初級スキー教室・マンツーマンで驚異の上達-----	20
教職員委員会の活動日誌-----	27
【記事】	
新フィールドノート—その 93—	
「コンピューターとフィールド」-----	22
魔言「すぎたるは及ばざるが如し—大雪」「天網恢々疎にして	
漏らさず」「トリノオリンピック」-----	24
投稿「すんでの事で」-----	26
ニュースに一喝！「いけしゃあしゃあと」「手のひらを返す」	
「体たらく」-----	28
かけはしの輪-----	30
アンケート・クイズ解答用紙-----	32
C O — O P   Q U I Z <Logic>-----	33
【送別特集】	
それぞれの思い出—退職される教職員の方々から—	
「名古屋大学の思い出」石垣武男-----	I
「私と生協のかかわり」大井田富代-----	II
「名大生協の平和実現への絶えざる努力」小林邦彦-----	III
「生協と私」高木克彦-----	IV
「名古屋大学の思い出」藤井直之-----	V
「大学生協と私」横田浩臣-----	VI

## 主張

三寒四温の季節が続いています。徐々にはありませんが、水道の水にも冬の冷たさはなくそんなところにも春の息吹が感じられ、待ち遠しかった春ももうすぐです。皆さんがこの冊子を手になされているころはますます春めいていることと思われま

す。さて、3月は巣立ちの時です。名古屋大学に入学して4年間ないし6年間、勉学に勤しみ、友を作り、旅行したり、免許を取ったり、実験や研究したりしながら大学生活を送ってこられ、社会へ旅立つ準備はすっかり整っていると思います。それももうすぐおわり、激動を迎えている社会

に入っていくわけです。名古屋大学で学んだことを会社や地域で実践していくことになり、ご家族との相談と自分自身の考えで決めた進路です。自信を持って望んでほしいと思います。「石の上にも3年」といいます。失敗をおそれず頑張っていたきたいと思う

負って立つ気概で頑張っていたきたいと皆さんでエールを送りましょう。教職員にも名古屋大学を去られる方がおられます。特にこれから3・4年間は団塊の世代が多数退職されることになり、今内に色々な技術、知識などのノウハウを伝えてもらったり、指導してい

生活が迎えられるようにしたいものです。

生協では、生協職員と学生委員会のメンバーが昨秋より新歓プロジェクトを立ち上げ、アパート・下宿の斡旋や生活用品、勉学機器および家電、音響製品の提案、学生たち相互が助け合う卒業までの学生総合共済などを準備して張り切って大学生活を

# 卒業生を元気に送り出し、 新入生を温かく迎えよう

のです。

送り出す我々もこれまでの経験話し、勇気づけ元気に送り出しましょう。名大生協では、昨年秋より卒業生のためのいろいろな必要なものを準備し、お祝いをしたいと張り切っています。

卒業生には人間関係を大切にしてこれからの日本を背

ただくことは将来の名古屋大学にとって重要なことと思えます。

4月に入ればまた新入生が入ってきます。大学受験の関門を突破してきた青少年たちです。また大学院への進学生も相当数おられます。我々教職員も含め、学生の先輩たちが温かく迎え、不安のない大学

スタートしてほしいと望んで頑張っています。

我々教職員には運営交付金削減など人件費抑制政策の影響で助手の方は別として特に若い職員は入ってこない状況がずっと続いています。組合員の皆さんには、周りに新しい方が見える時はぜひ名大生協のお店を紹介していただき、生協に加入して楽しく大学での勤務をされるよう勧誘をよろしくお願ひしたいと思います。

# 学問の魅力、学生、生協への期待 —トップインタビュー ⑬

## 杉山 寛行 文学研究科長



(1月31日 文学研究科にて)

加藤 読者の方々は先生方のご専門の研究に非常に興味があるようなので、先生の今の研究とか、学生時代からずっとやってこられた中身について伺いたいというのが一つです。二つ目に、名古屋大学はすごく変わっていきつつありますが、大学がこれからどうなっていくのかといった話。文学研究科と大学全体がどの方向を向いているかということをお話いただけるといいなと思います。三つ目は、若い世代へのアドバイス。四つ

目は生協に対しても是非忌憚のないご意見をいただきたい、その四つのテーマでお話を伺っていきたくと思います。

### 専門は中国文学です

杉山 私の専門的な研究というと中国文学になりますが、もともと高校生のときは漢文というものが好きじゃなかった。高校生の時には、やっぱり文学部に入ろうと思っておりましたが、そのころは

日本の近代文学とか、ヨーロッパの翻訳の文学に親しんでいました。そういう意味では文学経験がそういうものでつづられてきていて、大学に入ったらフランス文学をと、そういう志望でした。幸か不幸か最初のフランス語の授業に出て、ちよつと先生との相性が悪かったんでしよう。なんか「えっ」ということがあって、それ以来—私名古屋大学なんで—家から出てきて今池ぐらいで映画館にひっかかる

杉山寛行 (Sugiyama Hiroyuki) 文学研究科長  
名古屋大学文学部中国文学専攻卒業 (1971)  
同大学院文学研究科中国文学専攻修士課程修了 (1974)  
同大学院文学研究科中国文学専攻博士課程単位取得満期退学 (1977)  
名古屋大学文学部専任講師 (1980)、  
同助教授 (1991)、同教授 (1997)  
同大学院文学研究科教授 (2000)

か。以前は本山にも映画館がありましたから、本山の映画館でひっかかってしまったとか、というところで学校になかなか出てこない。学校に出てきても授業に出ないで図書館に居着いて本を読んでいるというようなことをしておりまして。

### 武田泰淳「風媒花」に出会って

文学部は2年生になってから進学を決めるんですが、そのときになつてふと気づいたらフランス語が全然できなくて、「これじゃフランス文学には行けないかな」ということで、国文学、日本文学に進学したいといって希望を出しました。そこで国文学の先生から、「何をやりたいんだ」と訊かれて、当時、色川大吉さんの『明治精神史』という本があつて、それを中心に近代文学、明治の文学に親しんでいたので、「北村透谷がしたい」と言いましたら、「うちではそういう人は入れません」と言われました。

あの当時は古典文学でないに進学させないということも知らず、そう言ったら、その場で進学を認めていただけず結局行くところがなくて、どこに行つたらいいのかなと悩んでいました。その当時――

武田泰淳はご存じですよ。北海道大学の中国文学の最初の教授

でもあり、中国に関する著書もたくさんあります。彼に「風媒花」という小説があり、この本がきっかけで中国文学というものはじめることになりました。当時、中国文学をやるうという学生はほとんどいない。ちょうどそのころ――私が大学入つたのは1966年ですから――文化大革命が始まって、何かにつけていろいろ早い決断を迫られることになりました。つまり文革を肯定するのかしないのかとか、毛沢東がどうのこうのという話になりましたから、それでだんだん嫌気がさしてきて、しかもなおかつ、先ほどもいいましたようにフランス文学の翻訳小説というところから体験している人間にとつて、当時の中国の小説は全然面白

くない。面白くないことが罪悪だというような言われ方も一方でありましたので、それで行き着くところが無い。

### ヨーロッパとは違う自我形成

一方で中国の文学にある水滸伝とか三国志とかいう俗文学も、ぼくには合いませんでした。中国文学を選んだけれど、結局どこに行つたらいいのかよくわからないということ、これも先ほどの武田泰淳から導かれて、16世紀から17世紀のエッセイみたいなものを読むということをしました。

それは中国における「個」とか「自我」の契機が問題にされていた時期でしたので、日本やヨーロッパのことはよく知りませんが、ヨーロッパとは異なつた自我形成が中国でどう行われたかという関心から、明の末から清代の初めまでを読み始めました。そうすると、今度は小説的な、文学的なエッセイよりはもう少し理論的、思想的なところで整理したほうが

論文になりやすいということ、そこで明代の王陽明という人の陽明学の展開――特に左派、陽明学左派といいますが――というものを読み、そのあたりでの思想形成をやるうというので、中国文学とはあまり関係のない、中国哲学のような領域に入りました。中国文学というのはプロパーというところを言わない学問ですから、16、17世紀の思想史というのが一つのテーマです。

### 中身より表現方法に関心が

中国人というのはいろいろな議論をする際に、自分たちの歴史的事実というものをどう検討するかという手法をとりますので、中国の歴史的な事実、またそれに対する評価を頭の中に入れておかないと、議論についていけないということがあります。それではそういうものをきちんと読まなければいけないということ、その後、中国の歴史書である史記とか漢書というものを丹念に読み始めるようになりました。そこでふと気づいたことは、僕が文学だと感じてきたものは、実は水滸伝や三国志演義といったものより、歴史書を読むほうがイメージに近い、小説

## 中国における自我形成がどう行われたか、明の末から清代の初めまでを読み始めました。

# 名大医学部の漢方のお医者さんと、江戸の医学書を読みはじめて二〇年近くになります。

に近いのではないかという感覚がありました。ほくは中身として書いてあることよりも、それをどう表現するかということのほうに興味があって、16〜17世紀のことを

やっていたのにも関わらず、突然紀元前後ぐらいの史伝文学にとんでしまつて、むしろここでの表現、形式の問題に興味の中心が移るようになりました。二つ目のテーマとして、史伝文学における文学表現と言つたらいいでしょうか。

## 漢方の文献を読み始め

三つ目は、もう17〜18年くらい前になりますが、漢方のお医者様のグループから、「漢文をきちん

と読めるようにトレーニングしてくれ」というようなことを言われて出かけて行きました。実は医学部に酒井恒先生という方がおられて、『ターヘル・アナトミア』を原

## 日本人はどう受容したか

二つ目は江戸時代のお医者様のものを読むということが続けていたら、江戸時代というのは、特に

18世紀は日本文学などではあまり評判のいい時代ではない、しかし中国学から見ますと、中国のものをそのまま受容しようとするかたちから少しづつ日本的な自立をするように変化してくる、ちょうどその筋目みたいな時期です。思想家で言いますと、伊藤仁斎とか荻

生徂徠という人たち、それと同じように、医学の面でもそういう系列の人たちが登場した。言ってみれば、中国医学をそのまま受容していたのがだんだん日本的に変化

した。その問題は私のように16世紀17世紀をやっていた人間にとつては、それを日本人がどう受容してそこからどう自立していったかという問題と重なる。しかも一般的には文学とか思想とかいうところで、そういう検討が行われていますが、医学というような現実の技術の問題を後ろに置いた場面ではどのような状態がそこで生まれてくるのかということに興味が大

だんだん移つていって、それで20年近く江戸の医学書を読むということになりました。三つ目の研究分野がそこから生まれました。トータルで見るとあまり中国文学とは関係ないということがかりをしていてというのが現状です。

加藤 何かトピックス的に、こういうところは面白いという話を紹介いただけませんか。

杉山 例えば今でも漢方薬というと、風邪をひいたりすると葛根湯をお飲みになると思いますが、葛根湯というのは、中国の一番古い医学書の一つで、処方の問題を扱う『傷寒論』という書物に出てき



インタビュアーに答える杉山寛行先生（左）。（1月31日、文学研究科にて）

ます。今でも使われています。そういう葛根湯などが出てくる書物に、日本人は江戸時代にものごくたくさん注釈を書きました。その注釈書を見ますと、大抵は中国の宋代以降の様々な注釈者のものをそのまま書いと書いて、非常に質の高いものでもその後日本人としてのコメントをつけていく。まず受容して、延長上にコメントをつける、これが18世紀ぐらいになると突然そういうものと無関係に自分だけで議論を立てて読んでいくという人が登場する。これもあり質が高く、表面上みると今までは中国人の名前がいつぱい出てくるんですが、18世紀ぐらいになって、同じような注釈のスタイルでも突然中国人の名前が一切出てこなくなる。そのあたりは見た目でも違いますので、日本人にとって18世紀は面白い時代だなどと思います。

料理と言っていますが、評判になつてくるものは、すべて中国料理とかオランダとかを、日本料理化して食べていました。ところが、今ですと中国料理屋さんというところ、これは中国料理です、本場そのままです」という。で食べてみると、本当は中国風日本料理としか思えないようなものが出てきます。「どうしてそうなっちゃったんだろう」と時々思います。中国から入ってきた料理をあえて日本化して日本料理のようにしていくという過程が一方であつて、ある日突然今度は「いや、中国そのままだ」という、こちらあたりの関係というのは今申し上げたような日本の文化受容との関係で、一体どういう道筋になつてくるのかなどということ時々思つたりします。

### 日本人のアイデンティティは 中国から来た借り物

話は変わりますが、この間テレビを見ていたら、憲法の改正の問

題が出ていて、その中の大きな根拠となつて居るのは「あれは翻訳憲法だから、翻訳憲法ではなくて自主的に新しい憲法を作らなければいけない」と。「自分たちの憲法」をつくらなくては、と。ぼくはそれを見ていて変だなあと思つたのは、その前に名前のプレートが「テレビですから」その方の名前は全部漢字で書いてあるんですね。自分のアイデンティティの中心の名前が漢字で、それは中国産で、いわば翻訳ではないのかということを思いました。自分のアイデンティティは中国からきた借り物なのに、なんで憲法だけは借り物だということをあんなに強調されるのだろうか。変だなあと思つたことがあります。

そういうふうには中国というのは日本にとつて極めて、言つてみれば迷惑な大国で、ほつといてくれれば日本は日本でそのうち文字も作つて日本語の発展もあり、表記の文化というのもあったんでしようが、あんなに立派な文明の大国が傍にいたことによつて、日本は

そもそも表現、言葉の一番中心のところも借り物で、それから自分たちの頭で考えるときに日本語と言つていますが、中国から借りてきた様々な熟語とか、そういうものを自分の中に入れて雑種的に成立している。そういう運命みたいなものは免れないんだと思ひ込まれました。

その一方、長らく中国の文明というものを受容し加工してきて、江戸期ぐらいで自立しかなかったなと思つた途端に今度はヨーロッパからいろいろなものが入つてきて、今度はいつせいにヨーロッパを向いて……。その結果、昔は映画館に行くとか東映時代劇というのは歌舞伎の外題のように漢字ばかりが並んでいましたが、近頃はカタカナばかり。それはやはり、日本人が文化を受容していく、そして自立していくという場合の様々なダイナミズムというのを表しているんだなと思つたりします。

皆川 18世紀の日本の文章は医学書にしても何にしても、漢文ですか？

杉山 基本的には漢文で書きました。和語で書く場合もあるんですけど、学問的な水準を保とうとすると、漢文で書きますね。ちょうどいま英語で論文を書かないと

## 日本は表現、言葉の中心なところで借り物 中国は立派な文明の大国 Ⅱ 迷惑な大国です。

…、というのと同じです。

皆川 ひらがなというのは女性の書く字だとかということも言われていましたけれど…。

「鮭」にあたった。すぐ来てくれ

杉山 啓蒙的な意味で、学者以外の人、庶民に向けては和語で書きますけど、やっぱり基本的にある学問的な水準を保とうとすると漢文で書きます。ですから、笑い話がいっつかあります。ある漢学者が食中毒にあたった。そこでお医者さんのところに手紙を書いて持

たせた。「味噌汁にあたったのですぐ来てくれ。食べた魚は……」。魚の名前として、魚偏に土を二つ書いた。「鮭」ですね。それを読んだお医者さんは「鮭？ そんなものであたったなんて。しかも何で味噌汁なんかにするんだろう」と思った。しかしまあそんなものであたったのならそんなに緊急じゃないだろうとのんびり出かけていったら、患者のところでもすぐくみんが慌てしている。よく聞いてみたらフグに当たったという。さっきの手紙では鮭と書いてあつたじゃないかと言うんです

が、実は鮭という字は、中国語の文献の中ではフグのことです。フグかフグに近い魚だと思えます。無学な医者のために私は命を落とすところだったと漢学者は言ったという笑い話があります。

そういうふうには漢学者だけではなくて、医学をやる人は一オランダ医学もまだ入る前でしたので、先端的な医学というのは中国の医学でしたから、中国の医学を理解するために漢文が理解できないといけない。逆に漢文を理解している人で食えない人は、たいてい医学で食っていた。本居宣長でも徂徠でも医学書の注釈を書いている。それで少しずつお金をもうけて自立して、自分の学問をやるということです。まずは漢文で書く、漢文で読むということが行われていました。

#### 当用漢字・簡体字に反対です

皆川 文字は、今の中国で使われ出した簡易体ではなく、古くからある漢字という形になりますね。台湾に近いのでしょうか。

杉山 そうです。我々は正字と言っていますけど。私は当用漢字それから簡体字反対論者なんです。当用漢字というのは元々漢字

を廃してひらがな・カタカナもしくはローマ字化するということが前提で作られています。一気にそのようにするというのは混乱が起るから、しばらくの間この当用漢字を使って全廃するという運動の中で作られていますので、ほとんど検討されてないんです、その文字自身が。作った方は、はっきりガラクタだと言っています。ガラクタでもいいから、ひとまずこれを使って将来全廃しようという運動の中で作られていますから、実に変なことがたくさんあります。どうして混乱が起らないのだろうとほくなんかは思ったりします。

例えば心臓の弁、それから弁護士(辯)、何かを弁ずるという場合の弁(辨)、それから山本周五郎の「五弁の椿」というときの弁(瓣)ですね。これらは全部違う文字ですよ。それをなくして全部一つで処理しているというのは、もともとの意味から考えるとかなりおかしいことです。本来、音も違いますからね。

それから芸術の芸という字は、草冠の下に云々の云で、もともと中国で香りのいいウンという草の名前で、本当はウンと読まなければいけないはずの別の字なんです





す。京都に「芸香堂」という店があります。みんな「げいこうどう」と読むんですね。お店では嫌がつているのか、ローマ字で「UNKOUDO」と書いてあります。

中国の小説に女性の名前で「芸」という人が出てきたりすると、学生が「ゲイ」というから、「ゲイじゃないぞ」というふうに言わざるを得ないんです(笑)。そういう風に当用漢字って変なことが起こっているんです。簡単になつたとは言いますが、例えば私の名前の一つに寛大の寛という字があります。あれは最後に点があるはずなんですけど、ないんですね。点一つくらいで簡単になつたのかどうか。何でこんなことをしたんだということとか、一つずつ考えるところ随分おかしなことがあります。そのせいで日本で作つた当用漢字もあり、中国も実はローマナイズするための前段階として簡体字を作つたんですが、それが成功しなくて途中で止まってしまいました。そうすると中国で作つた簡体字、そういう略字、それから朝鮮半島で

はハングルになりましたけれど、その前には少し違う字体。結局同じ文字なのに、中国でも日本でも台湾でも朝鮮半島でも異なつた漢字がつけられてやたら増えてしまつていく。こんなことなら元に戻して、スタンダードな正字—正字というのはどのようにきまつていったかについては問題は問題ですけど、一つに集約—コンピュータ処理でなら今なら簡単にできますから—したほうがいいんじゃないかと思ひます。そういう意味で当用漢字廃止論者なわけです。

うのはかなり大きな問題ではないかと思ふんです。現実には、例えば漱石でも鴎外でも当用漢字しか知らないといふことでは困るのではないかという気がします。いま文庫は歴史的仮名遣いも含めて全部当用漢字に変えてしまつていきます。そのあたりどころは、もともと日本語が表音文字でなければいけないという運動の中で、全部ローマ字、ローマナイズするか、カタカナにするかひらがなにするかという方針が出てきていますから、それが今となっては実現できないとすれば、当用漢字そのものにも問題があると思つていきます。

#### 文学研究科の将来

杉山 はい。もともと意味をも表しているわけですから。皆川 それを無視してどんどん省略してしまつた。杉山 ももとの意味がはっきりしなくなつて成立しなくなつていく。漢字としてこういう意味で使われているのに、この形ではその意味では全然はつきりしないとい

加藤 興味深いお話でした。このあたりで次のテーマ、大学の変化とか研究科の新しい取り組みなどの話に移らせていただけますか。杉山 やはり法人化を迎えている変化していると思ひます。文学部は非常に古い体系を持つた、

意味を表していた漢字が変なことになつていく。私は当用漢字・簡体字反対論者なんです。

20くらいの領域のはつきりした領域型で学問を維持している。学問の継承という点では、こういうシステムは悪くはないと思つていきます。基礎的なトレーニングを伝えていくということでは、こういう形もメリットはあると思ひます。しかし、その一方で学問内容そのものの問題でかなり新しい領域が出てくる。またそういう領域を開発していかねければならない。その点では、この徒弟制みたいな形ですつと長い期間、そういう領域でのトレーニングを続けていくシステムでいいのかということは強く思ひます。それからそういう場面でありながら、もう少し幅広くいわば学問全体を見回していくということが学生、大学院生の人たちに必要ですが、その点について、やや専門性が際だつていて、それを支える基盤の広さに不安があります。それについて、どうケアしていくか、制度として必要になつてきていると思ひます。まして人員の問題が深刻な状態になつていきます。今のスタッフで、効率的にどう対応していかなければならないか、深刻に問われていると思ひます。「脱皮しない蛇は死ぬ」ということは好きなのですが、我々が日常的に脱皮して新しく成



長していくために、何を古い殻だと考え、何を新しい生き生きした蛇だと考えるかが深刻に問われていると思います。ちよつと抽象的になってきました。

皆川 どこも考えていることです。生協もそうです。

加藤 学生の受け入れとか大学院生の構成とかで変わっていくところはありますか。

杉山 それは考えざるをえないと思います。いま学生諸君を受け入れる時に、文学部は最初から専門を決めていなくて、二年生になるとき―我々の時は二年の後期で、三年になるときでしたけど―いま少し下がって一年になっています

が、このことの検討もまた必要になってくる。あまり早い時期に専門を決定しないというのは、文学部などの学生には制度としてはよい制度だと思っています。

いろいろなものに触れて

学生諸君も自分たちが高校生の時に学んできた、その延長上に大学の学問があると考えていて、実際はそうでもないというところもありますし、高校では触れなかつたものもあります。ある期間、いろいろなものに触れて、その中で自分に一番ひつたり合ったものを選んでもらうことは必要なんじゃないかと。それと同じ時に専門的なものを選ぶ前に、いろいろなものを見てくることは必要ではないかとも思っています。

私も高校時代漢文が大嫌いでしたが、今や漢文屋さんになっています。まあ、そういうこともあり得る。そのためには、一年生に入ったときに、かなりいろいろなものを見ることが

できるような、触れることができるといふ状態を作っておかなければいけない。いま学生の人たちの気質の中に、好奇心が旺盛で、いろんなことに手を出していくということでは無い方向が、傾向としてあるような気がしますので、そういう点でも何か、考えていかなければならないと考えています。

大学院生については、文学部というところは十年に一人後継者が出ればいいというようなイメージがありました。つまり文学研究科の大学院生として学ばれた方が、学問の後継者としてついでゆかれるだけではなくて、社会のいろいろな方面に登場していかれるという状況になっていますので、そういう点では、今までのある種の徒弟制みたいな形で、一人だけ後継者を作り上げていくという、そんな大学院教育は成立しませんので、大学院のシステムを変えていかなければならないと思います。しかし一方ではそういう今までの形での利点はどこにあつて、それをどう継承していかなければならないかということもあると思いません。

加藤 先生のところでも留学生の方が、何人か…

杉山 私のところもやはり中国か

ら留学生がかなりたくさん来ています。中国人留学生の人たちに中国の古典をトレーニングしながら、そんなことも知らないの？と言ったりすることに矛盾を感じることもあります。研究というのは、中心にあるのは方法論です。それについての見解があるはずで、その点での問題をそれぞれ展開しあうことが必要です。

しかしその前提として知識の問題もあり、中国人でもないのにどうしてそんなことがわかるんだと言われても困りますね。韓国からの留学生もおりますし、台湾からの留学生もいます。中国といつても北のほうの出身の方も、南のほうの出身の方もいますし、個人差もありませんが、全体としての気風の違ひを感じることはあります。そういう点で日本人学生にもいろいろな刺激になっていると思いません。

加藤 中国の方、多いですね。

杉山 やはりアジアから。大学としてもアジアを核としてどうたつていますし、その点は重要だと思いません。しかし、中国を中心とするアジアというのは難しい。先ほど申し上げたようにいろいろな文化的な交流の中に、例えば私の領域では、人間個人の考え方から始

まって、ずいぶん違う点もはっきりしてあります。そういう違いを踏まえて、お互いどのように理解するか。政治的な問題も、経済的な問題、文化的な問題を通して難しいところがあるということ。これを前提に考えていかなければならないと思います。

### 面白く感じる（能力）も

加藤 学生、大学院生というお話になっていきますが、特に今若い世代に伝えておきたいことを……。

杉山 少し比喩的で申し訳ないんですが……。私スポーツがあまり上手ではなかったのですが、大人になってからスポーツをやりたいと思うことが多くて、例えばテニスをやりたいと思ったことがあります。そうしたら事務部の方で非常に上手な方がいて、朝六時に山の上のいらっしやいとおっしゃるので、朝眠いと思いながら行きました。そうしたら、このあたりを少し走ってみ

なさいと。少し走って柔軟体操をして、それからやつと打ち始めたんですが、ホームランで、全然続かないし面白くないんです。もう少しコートが長ければ入るのに。ネットが低ければ入ったのに、ネットがあんな高さだから入らない、誰が決めたんだというような不満ばかり。帰ったらなんだか体のそこら中が痛い。面白いはずだったのに、何も面白くない、というのをしばらく続けていたら、ボールが入るようになりまして。入るようになると、どうして入るようになったのかと考えたり、ネットにぎりぎりに入れることが今度は快感になってくる。つまり何かをおもしろく感じることは、少し誤解を恐れずに言いますと、面白く感じる能力も必要なんです。つまりある種の能力が自分の中に身についてくることによつて、初めて面白く感じられる。また制約が技術を開発するというところもある。誤解を恐れずに言えば、学生の人たちにはまず理解をしていただきたい、最初から面白

いわけではないと。面白くないものは役に立たない。最初からいつも面白いわけではないが、能力を十分に開発していくことで、面白さは生まれてくる。学問にも、ある種そういうところがあるのではないか。ただし、みなさんは能力を持っている。

### 表現上の決まりがある

例えば、生協の書籍に行つて、漫画なんかは置いてないないかもしれませんが、漫画の本を開く。主人公は、物語の中で中心的な役割を果たす人物のことを主人公と言つとすれば、ぱつと開いただけで、物語もストーリーも何もわかつていないので、主人公は誰かわかるはずもないのに、たいていの漫画では、ぱつと開くとこれが主人公だとわかるわけです。なぜわかるのか。それは、やはり漫画にも表現の決まりがあつて、少女漫画だったら、長い長い髪とか、星

最初からいつも面白いわけではない。能力を開発していくことで面白さは生まれてくる。

を宿すことができるような目とか、どこで息をしているんだという鼻ですとかね、ある種の表現のシステムがあつて、そういうものを別に理論的に理解しているわけではないけれども、我々は経験的に蓄積して、ぱつと見てこいつが主人公だとわかる。隣にいて、鼻の穴が大きく書いてある、誰も彼も人間はみな鼻の穴を持っているのに、漫画の中で鼻の穴が書いてあるのは主人公ではないというよくな、そうした表現上の決まりみたいなものを理解する能力を我々ももっているわけです。つまり、漫画を読むということでも、そういう蓄積された能力があつて、そういう能力で読み方を深め、楽しんでいく。我々は自然にそういう能力が身に付いていて、楽しむことができます。

大学では、そういうことをもう少し自覚的に、自分たちにはどういう能力が必要とされていて、自分の身に付いているか。また身につけていくか。それをどう使つていろいろなものを読み解いていくか、それを楽しむかという点に自覚的であつて欲しい。そういうことからすれば、自分の専門がこれだからと、それだけではなくて、むしろ違う領域のものから気づく

# 大学は、知らなかつた喜びを獲得できる場 楽しみのためには「技術」の獲得も必要です。

ということも起こってくるんじゃないかと思ひます。特に大学に入つたばかりのころは、自分だけが好きだというものだけでなくて、幅広く目を向けて欲しい。こういうのは嫌いだし、だいたいやつたことが無いという場合は、いわば楽しむ能力を身に付けていない、そういうことなんじゃないかなと思ひます。

昔、アスレチックジムに休みとか夜に定期的に通つたことがあります。そこで見てみると、中学高校で運動、体育があまりできなかった人ほど、楽しくずっと続けていくんだなつて。長く続く人は第一級の選手だつた人ではなくて、むしろ逆上がりもできない、懸垂もほとんどできないような人たちが、と言つては悪いのですが、そういう人たちが来ていて楽しそうでした。体育の時間に、こうしたらできるといふ指導ではなくて、おまえはできない、おまえはできるというように選別されて屈辱を受け、楽しむことのできなかつた人が復讐をしているような

感じで、楽しんでおられるようでした。だから、案外見方を変えれば、また楽しむことができる。ほくも腕力がありませんから、ベンチプレスで30kgぐらいを持ち上げている、隣の女性はガンガンと上げていくのに。そのうちぼくでも筋肉がかわつていつて、何箇月かすると自分の体重ぐらいは上げられるとか、さらに100kg近く上げられるようになる、その過程にやはり喜びみたいなのがある。そういう喜びを感じていけば、体育の時間に虐げられた人たちは、人生で新しい快樂を獲得するんじゃないかなと。

## 新しい喜びの獲得 大学は制度として保障を

大学というところは、そういった喜びみたいなのを、今まで知らなかつた喜びみたいなのを、たくさんチャンスとして獲得できる場所だし、そういうことに導いてくださる先生方もたくさんおられる。学生も、自分からうまく

使つていく。大学も制度としてそういうことを保障していくことが必要ではないかと思ひます。学生の人に何かを言うことであれば、そういう楽しみのためにはある技術の獲得も必要で、それを獲得すれば、新たな喜びを展開していける。そのために、意識的に追求してみたらどうかと提案をしたい。中国文学も面白いですよ。なかなか学生来ませんので。それは理科系でも文科系でも同じではないかと思ひます。

## 生協には 衣・食・住の安全の保障を

加藤 最後に生協にたいするご意見を頂きたいんですが。

杉山 私のところの書架の蔵書の過半は生協でお世話になつた書物のはずです。昔、バスで通学していたとき、昔は車掌さんがおりましたので、千円札を出すと叱られるといふことで、帰りにまず生協に行つて、岩波文庫の一つ星一近頃星なんて死語になりましたけ

ど。ぼくらのころは星一つ50円でした一二つだと10円が無くなりますから、たいてい一つのを買って、それでおつりをつくつて帰るといふのが習慣でした。そういう意味では知的な部分のかなりを生協さんにお世話になりました。

食事も、それこそ全食事の3分の1くらい、今日でもお世話になり続けているので、生活者としてトータルな部分の何十%とお世話になつていきます。

本屋さんでちよつとした本が置いてあることで、それを手にしたといふ事が、大きなものを開いていくといふことのきっかけになるということもあるわけですが。学生の人たちにとつても書籍にどういふものが置いてあるか、または体のために食堂でどういふものが提供されているかといふことは、すごく大きな比重を占める。それだけ大学生活の中で占めているパーセントは大きいといふことで、是非そういう点で学生や職員の知的な、健康的な重要さといふものを、積極的に位置づけていただけたいと思ひます。私の筋肉の大半は生協で培われたものかもしれません。(笑い)

昔、生協には現物が見本として出してあるんですね。夕方遅く行



の安全ということへの不安は持つています。これに関して、私たち消費者組織としては、政府にお願いすることはきちんとしてお願います。また我々自身も自己点検というか、対応するパートナーさんにも、本当に大丈夫ですかと確認し、本当に安心安全とうことで提供していきたい。生協の責任も大きいと思っています。

杉山 「衣」「食」「住」と言いますが、「衣」も本当に体に大丈夫かという部分はありますが、とりわけ「食」と「住」は問題になっていて、個人で防衛するのはなかなか難しい問題です。安いマンション買ったからそれは自己責任だと言われても、その前に安全性というバーがあって、それをクリアしていればあとは自己責任かもしれないけど、そこが非常に不安定になっているのではと思います。食べ物の問題では特にそうです。もつと大きな国の問題でもありますが、そういうところで自覚的にどんどん進めて頂いて、学内で生活している人間にとつての安全の保障を担って頂く必要があります。私の体が悪くなったら、私の筋肉の大半は生協に依存していますから：(笑)。冗談です。

皆川 名大生協は、災害時に大学と協力して対応するという「協定」を交わしています。

#### 文化享受の機会をつくって

杉山 はい。それから映画などの行事もしておられます。今後も学生や職員がそういう文化的なものを楽しんでいく機会を提供してください。大学として発信していく場合にも、生協さんが力になってくれるといいと思います。

今井 大学でもそういう場が用意されていますね。この間は法学部で江川紹子さんの講演会が行われました。もつと広い学生が知り得るようなものだったらよかったです。

杉山 そうですね、組織化して、学生や職員が積極的に参加できるような形のシステムがつけられたらいいと思います。単発的にはもつたないですから。

現実的な問題で言えば、一度もそういうものに触れていないと楽

しめない。私は学生を連れて歌舞伎を見に行ったりしますが、歌舞伎の時代物はともかく、世話物などはあのテンポについて行けなくて、学生があまり面白がらない。杉山が来いって言ったから一緒に来たみたいになってしまふ。再度誤解を恐れずに言えば、楽しむ能力みたいなものを助成する場が大学全体としてあればいいと思います。

60歳近くになってから、新しいものにはなかなか挑戦できません。子どものときや学生時代に観たというようなことは、それ以降、全然触れてなくても面白いと思うかもしれません。一度もしたことがない、手を触れたこともないというものは、新しくはじめることはもう絶対にできないという気がします。若い時代に日常的に目に触れる、手に触られるというような形での発信ができればいいなと思います。

今井・加藤・皆川・箕浦 長時間

ありがとうございます。  
(インタビューは1月31日、文学研究科にて。聞き手は名大生協Ⅱ今井信彦、加藤 肇、皆川 清、箕浦昌之(写真)。文章と見出しの責任は「かけはし」編集委員会にあります)

くと、みんな食べちゃってあって、A定食が何でB定食が何かよくわからない時がありました。その時代から今日のお昼までお世話になっています。やはり、食の安全というのも、いまも騒動がありますが、食の安全や住居の安全など、生活の一番基本的な安全を守ってくれるかというところに疑問がわいているのですが、大学の生活というところで生活協同組合が占める割合は大きく、期待していません。むしろ、お世話になってばかりです。

今井 食と同時に住まいという基本の部分への信頼性が揺らいでいます。私たちも住まいの紹介事業をやっていますから、紹介する建物

が本当に安全かどうか、住まい

が本当に安全かどうか、住まい



## マルセパン 工場見学のご案内

マルセパンは昨年11月から北部購買部、IBカフェ、プランゾ、理系ショップでお目見えしているパンのメーカーです。マルセパンは岐阜県不破郡垂井町で40年地産地消・安全安心をキーワードに時代の流れ、ニーズにあった商品づくりを目指しています。添加物や保存料を使用しないことはもちろん地元の食材、オーガニック、国産の素材を積極的に使った安心安全なパンです。

各お店でマルセパンをご利用のみなさん、パン工場を見学し、パン職人さんと交流しながら、消費者の声と組合員のニーズを届けに行きましょう。

日 程：2006年3月11日（土）

行 き 先：岐阜県不破郡垂井町・マルセパン

集合場所：名古屋大学博物館西

集合時間：9時00分

参加申込は：E-mailまたはクイズ解答用紙で

問い合わせ先：kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

参加費：無料



# 平和ミニツアー第一弾！

## 豊川海軍工廠爆撃と跡地調査

3月21日（春分の日）に、豊川海軍工廠跡地の戦跡調査を行います。

豊川海軍工廠跡地は、現在名古屋大学太陽地球環境（STE）研究所の敷地になっていますが、2007年度STE研究所が東山地区に移転するのを機に、戦跡の残る一帯は整地され、豊川空襲の悲劇を伝える戦争遺跡が消滅する可能性が高いとのこと。

豊川空襲は広島と長崎に原子爆弾が投下された狭間の1945年8月7日真昼に起きた惨劇です。当時大勢の人が集中していたため多大な人的被害を被ったところであり、多数の男女動員学徒が命を落とすことになりました。

平和憲章のある大学の敷地内に戦争遺跡があるにもかかわらず、名古屋大学の学生・教職員はその存在をあまり知りません。そこで、私たちの手で戦跡を調査し、記録を整理して残す作業を行ないたいと、このようなツアーを企画しました。

現地での見学箇所は、豊川市による豊川空襲の記録が桜ヶ丘ミュージアムに展示されているので、まずそれを見学し、その後でSTE研究所内の戦跡を確認していきたいと思います。

もし可能なら、豊川空襲の事を語ってくれる人の話も聞こうと思います。

日 程：2006年3月21日（祝）

行 き 先：太陽地球環境研究所（豊川市穂ノ原3）

集合場所：名古屋大学博物館西駐車場

集合時間：9時00分（第2次集合地：10時20分豊川駅）

行 程：10:30 豊川桜ヶ丘ミュージアム見学

12:30 見学終了→昼食

14:00 STE研究所内海軍工廠跡地見学・記録

16:00 見学終了後、感想交流

17:00 終了・帰宅(18時名大着予定)

参加申込は：E-mailまたはクイズ解答用紙で

問い合わせ先：kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

参加費：無料

桜ヶ丘ミュージアム豊川市郷土資料展示室の開館時間は午前9時～午後5時入場は無料です。

以下のURLにて詳しい情報が得られます。

<http://www.city.toyokawa.lg.jp/tanto/bunka/museum.html>

## 平和憲章制定19周年記念企画・憲法講演会

# 「今なぜ、憲法・教育

# 基本法を変えるのか？」

2月2日午後6時、生協教職員委員会と平和憲章委員会の共催で、工学部IB電子情報館011講義室を会場に、名古屋大学平和憲章制定19周年記念企画を実施しました。

第一部では、講師に本秀紀名大法学研究科教授を向かえ、『憲法講演会「今なぜ、憲法・教育基本法を変えるのか？」』を実施、第二部ではIBカフェにて交流会を行いました。

この企画は、毎年継続して2月5日(平和憲章制定記念日)に生協教職員委員会が開催している催しで、ここ何年間は平和憲章委員会との共催となり、少しずつではありますが参加者層も若手にシフトするなどの新たな広がりを見えています。

この企画を実施するにあたり、

平和憲章委員会と教職員委員会では平和憲章そのものを印刷した案内のピラを製作して配布する作業を協力しあい、企画そのものの成功とともに、平和憲章そのものの宣伝にも力をいれてきました。

本先生の講演のスタイルはギターを片手に歌を交えたユニークなもので憲法を身近な問題に引き付けてわかりやすく論ずるところとあわせて、多くのファンがいます。

全体の参加者は27名、今回は風邪を押しての講演となり、ギター弾き語りで「世界に一つだけの花」の一曲だけでしたが、とても暖かい演奏でした。そして、やっぱり、本先生の話は分かりやすく面白かった！もっともっと宣伝しなければと思います

した。

講演を要約すると、近代憲法の基本理念は「国家権力を縛るもの」という2005年5月21日の講演の復習から始まり、自民党の新改憲案の問題点について、これが近代憲法の基本理念から逸脱し個人の尊厳や市民的自由をないがしろにして戦争遂行を可能にするために国民を縛るものへと変質させていることを明快に浮き彫りにしてくれました。そして、僕たちは何をすべきかを問いかけられました。

第2部の交流会では、IBカフェにて、参加者の感想や憲法、平和憲章について大いに語り合いました。南山大学から参加していたいたMシーゲルさんから、オーストラリアが日本と同じように米国との軍事同盟を結んでおり、軍事同盟強化が周囲の国々との緊張を招いているということを知りました。余談ですが、Mシーゲルさんに軍事同盟の問題点について講演していただけるような機会をつくりたいと思いました。

本先生、平和憲章委員会の無



理なお願いを聞いてくださり、ありがとうございました。改めて御礼申し上げます。

以下は参加者の感想です。今回の講演会が有意義であったことを示していると思います。

### 参加者の感想

○自民党新案法案をもつかってで、比較してのお話はわかりやすかったです。もう少し、自民党、日本国家権力者のおかれて





いる状況、中国の台頭への危機感、などを最初の方でハッキリさせてほしかったです。大変な時代の中ですがともに頑張りましょう。（学生）

○すばらしかったが、もっと参加が多いと思っていた。大学でこのような平和憲章があること自体すばらしい。（聴講生）  
○今日の講演会は改憲のからくりがよくわかり、これから考えていく礎になりました。本先生のパソコンに向かうのが好き、という言葉、同感です。しかし今

のネットでは右寄りの思想が権勢をふるっており、それ以外の言葉が届きにくい状況も生まれている気がして、それが何か、若い人たちの思想にも影響している気がします。愚直に伝えていくことも難しくなっていく気がして心配です。平和憲章制定20周年になったら大々的に議論出来るかとも良いかもしれませんね。（学生）

○政府の改憲の意図を分かりやすく説明して頂いて、非常に勉強になりました。本先生の歌をもっと聞きたかったです。『世界に一つだけの花』いい歌ですね。（教育学部生）

○わかりやすく、楽しいお話でした。財界の意識について、特に勉強になりました。先生の本調子のときにまた講演をききたいです。私も教師になって、地道な活動を行っていきたいと思っています。（院生）

○着々と改正に向かう下地が甘い言葉で作られていることが非常に恐いです。先生の体調がすぐれず、少ししか歌が聴けず残念でした。（もう一度、学内でこ

のような機会を作っていただけるとうれしいです。平和憲章の理念価値をまずは学内で再認識し、実現することが早急の課題であるかと思えます。このような崇高な理念を学外へ広める動きも必要かと思えます。価値を共有できる他大学や機関との連携を索捜することにも価値は見出せると思います。もちろん個人のつながりを深めていくことも重要ですが。（院生）

○体調が悪く、ありがたうございました。とても分かりやすく、充実した内容で勉強になりました。（院生）

○充実した資料と事例の引用によって、かなりわかりやすかつたと思います。他の大学が、似たような憲章をするっていうのであれば、連帯して20周年に向けて全国に広めていきたいと思えます。先生のギター演奏すばらしかったです。どうかお体ご自愛下さい。（院生）

○わかりやすいお話でした。コミュニケーションは苦手ですが、インターネットがとても有効だと思えます。藤前千鴻を守った

のはインターネットの力だが、最近「生協の白石さん」があれほど人気でたのもインターネット（ブログ）の力だと言われています。参考になると思えます。20周年にも期待します。（職員）

○60年前の敗戦直後にこのようにすばらしい憲法と、たった11条しかないが教育するにあたっての国家や地方の行政に対して厳しいしほりを課している法律を考え、成立させてきた先人たちに敬服したいと思います。色々などころで改憲反対の活動をしていきたい。第2部で南山大学のシーゲル先生（オーストラリア）に会ってお話を聞き日本とオーストラリアがアメリカの子分に成り下がっていることを聞いて驚いた。平和憲章は若い学生たちに伝えていかないといけないと思う。名大内の掲示板に新学期や後期開始時に憲章全文をきれいに印刷したものを掲示しまくろう。（職員）

○よかったです。わかりやすかったです。重要な視点だと思います。ありがとうございます。（N大学教員）

## 平和憲章委員会・連続学習会

# 「映像で語るわたしたちの 日本国憲法」を振り返って

平和憲章委員会の主催で、ビデオ「映像で語るわたしたちの日本国憲法」(監修 杉原泰雄、憲法学者)を中心にした連続学

習会を昨年9月から半年間実施しました。

ビデオ「映像で語るわたしたちの日本国憲法」とは、10年前

に、憲法施行後50年の歴史・現状・課題を確かに記録し、現代に生き

るさまざまな人の声をまじえて構成され、教授陣と製作チームが協力して作られたもので、全30巻(1巻45分)にまとめられています。

俳優永島敏行が案内役をつとめ、わたしたちの視点にたつて憲法を考え、各巻それぞれが専門家が憲法上のポイントを解説。さらに、メインゲストによる意

見、及び各界著名人の幅広いコメントなども取り上げてまとめ、高校生にも理解できるような内容になっているのが特徴です。

学習会は、このビデオをDVDに再編集されたものを使い、毎月 第二・第四木曜日 午後6時〜とし、ビデオ2巻分を視聴し、意見交流を行うという方式で、会場は主に北部厚生会館2階「ゆ〜どん」で実施しました。第一回目を9月8日(木)とし、以後、12回にわたって実施しました。

企画者としては、食堂のトレイ持ち込みもOKなので夕食を兼ねて気軽に参加してもらえればと考えていましたが、参加者が少なく残念でしたが、自分自身を通して視た感想では、ビデオが10年前に作られたにも関わらず、非常に新鮮で、今日の改憲議論を考える上で重要な視点を幾つか与えられたと思います。

とにかく、世界の憲法の中で

日本国憲法がどのような位置にあるのか、世界平和に日本国憲法が果たしている役割など、今日の改憲論では全く省みられない重要な観点が、じつは日本の将来をも決める大きな事柄であることを、視聴者は自然に理解できることでしょう。

ビデオ(DVD版)は平和憲章委員会メンバーの手元にあるので、リクエストがあればいつでも上映可能です。少人数での学習会など、大いに利用していただきたいと思います。

名古屋大学平和憲章委員会(連絡先 [heiwa@nuufs.org](mailto:heiwa@nuufs.org))



# ハフニング続出の産地 見学、でも楽しめました

11月23日（水）祝日、めいきん生協で組合員に親しまれてい  
る生協みかんの産地見学を参加  
者7名で行いました。場所は浜  
松市細江町の細江農民組合です。  
事前の集合時間の確認連絡を  
怠ったため、8時集合組と9時  
集合の組で集まったため、1時

間強の遅れで出発しました。絶  
好の天気で行楽日和と言うこと  
もありましたが、それに輪をか  
けて名古屋・日進間でトラック  
の中央分離帯への事故で大渋滞  
にあつてしまい、約1時間で渋  
滞を抜け、結局、11時半頃に到  
着しました。農家の担当の方に

はそれまで待つてもらいこ  
迷惑をおかけしました。

集荷場からみかん畑は結  
構遠く途中昼食を買い、農  
家の方がシシ肉を焼いて食  
べさせてくれました。シン  
ブルな味でしたがとても美  
味しく、また、農家の方のお  
話も大変おもしろいもので  
した。

そのあと、思い思いにみ  
かんをとって食べたり、購  
入するための分をみんなで  
取りました。どの木のみか  
んが美味しいか聞いて

も食べてみればわかる  
と言うことでしたが、皆思  
い思いに食べたり取ったり  
で結局、どれも美味しいみ  
かんでした。

帰るとき、切り株に車が  
嵌つてしまい、どうにも出  
られなくなり、大型の  
ジャッキを借りてなんとか  
脱出できました。産地に  
コートを忘れるなどいろ  
ろなハフニングの連続の影  
響で温泉に行くのは止める  
ことになり、集荷場に戻っ



たら産地交流と言うことで、1  
kg入りの袋詰め作業を楽しく話  
し合いながら、競い合いながら  
延々と2時間ほど行い、その日  
の出荷分は完了できました。参  
加者にはお手伝いいただき申し  
訳なかつたと思います。

その後、高速に乗り渋滞もな  
く名古屋大学に帰ってきました。  
参加された組合員の皆さんには  
記憶に残る産地見学で楽しかつ  
たとの感想でした、大変ご苦勞  
様でした。



## 初心・初級スキー教室

# マンツーマンで驚異の上達

2月17日夜9時30分に集合し、スキー教室での食材を購入し、10時30分に参加者4人全員集合、出発した。一番の心配事は天気である。空には星の見える夜空であり、後は山での路面凍結が気がかりである。目的地のひらが高原まで路面には雪もなく快適なスタートであった。宿泊地の別荘内の道路にはまだ雪も残っていて氷の状態であったが



4WD車の威力でチェーン装着作業もなく無事に1時過ぎに到着した。明日のスキーを忘れて酒盛りをしてみました。朝遅めに起床し朝食を済ませて、いざ、スキー場に出発。朝からの晴天で気持ちの良い日になった。参加者は全くの初めてと少し滑ったことがある程度の初心者2名であった。準備体操をしてスキー教室をはじめた。まず初めにスキーをはいて少し登っては滑ってみるといふことの繰り返しで、スキーの板になれることからはいまる。スタートが遅かったので昼食は13時過ぎとなっていました。食堂のテラスで作ってきたおにぎりを頬ばる。午後からはリフトに乗って緩斜面の滑走をブルークボーゲンで滑り降りる練習である。初心者とは思えないほどの上達ぶりでマスターしていく。初日は最終

のリフトまで練習した。宿舎に戻り着替えてから高鷲村まつりに参加した。レーザー光線シヨールなるものを見た。雪上でのまったりだったので体も冷え切ってしまい、会場の隣の温泉に即入浴で温まった。宿舎に戻ってから河合さん特製鍋を美味しく頂いた。2日目は朝早く起き、朝食後ゲレンデに出発。だいぶスキーにも慣れたことで、初めから山頂をめざしてリフトに乗る。山頂からの眺めは天気も良くすばらしかった。2日目はブルークボーゲンからシュテムターンの練習である。参加者は昼までの2時間を真面目に励んでいた。2日目の昼も作ってきたおにぎりを食べる。午後からも急な斜面を利用した斜滑降と緩斜面でのシュテムターンを練習した。2人とも初心者とは思えないほどの上達ぶりであった。15時30分に教室を終了して、渋滞の帰路についた。名大に到着したのは21時を過ぎてしまうので途中夕食を取って、22時30分に到着した。

## 二つの思い出

山本 泰慈

スキーレクではとても楽しい2つの思い出ができました。1つめは、当然のことながらスキーです。人生初のスキーでしたが、河合さんや箕浦さんの適切な指導の下、スキーを楽しむまでに滑られるようになりました。さすがに急勾配の坂には足がすくみましたが。こんなに楽しいものならもっと早くからやっておけばと思いました。

2つめは、これは泊まりでないと味わえない、夜遅くまで語り合えたことがよい思い出です。普段は時間の制約もあってゆっくりと話ができません。しかし夜は長く時間はたっぷりあり、またそこにお酒が加わることで、話がより一層盛り上がりました。泊まりの醍醐味でした。

最後になりましたが、このようにすばらしい企画をしていただいた河合さんや箕浦さんには、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



## スキーレクの感想

### ユニセフ班募金チーム

酒井 玲奈

ある日、PCメールの受信トレイに平和憲章委員の河合さんからのこんなタイトルのメールが舞い込んでいた。「スキーレクに行きませんか？」即座に「是非行きたいです」と返信していた。それから一ヶ月あまりたった2月17日、私たちは岐阜のコテージに向かう車の中にいた。参加者は平和憲章委員から河合さんと箕浦さんの2人、ユニセフ班から山本先輩と私こと酒井の2人で合わせて4人であった。若干参加者が少ないのが寂しいが、楽しい旅行になりそうだと。

そして、岐阜到着。車から降りると、凍てつくような寒さである。薄いコートで来たことを後悔しながら見上げた夜空には寒々と瞬く美しい星があった。大きなひしゃくが見えた。

しかし、すぐコテージに入るわけにはいかない。コテージは雪に覆われていた。しばらく雪かきをしてやっとコテージの中

へ。コテージの一階には、ストーブやこたつ、テレビまである。真ん中にはらせん型に近い階段があり、一階の半分ほどの広さの2階があった。なんとなく面白い構造だと思っていたうちに、ほどなくストーブで部屋が暖まってきた。それから、こたつでお酒を飲みながら話した。箕浦さんは飲めないそうで、早々に就寝。河合さんと山本先輩と私は朝の4時まで話をしていた。あまりにいろいろなことを話していたので全部は覚えていないが、主に昨今の社会状況とユニセフ班の今後について話していた。飲みながら語らうことほど楽しいことはない。その後、私は2階に登って就寝。

翌朝、私は大寝坊で、9時に起きました。みなさん本当にこめんなさい。

昼からスキー場でスキーをする。北陸出身の私はスキーは小学生以来であった。ある程度は体が覚えていたので、すぐリフトにのつて上から滑った。箕浦さんに指導していただいて滑っているうちにだんだん勘を取り

戻した。ボードの初心者が大勢滑っていて、若干危ないが、滑るのが楽しくてたまらない。調子にのつてスピードを出しすぎて、かなり危険な状態だったと振り返って思う。やたら転んではばかりいた。箕浦さん、ご迷惑をおかけいたしました。

その日の終わりには、初心者の山本先輩に追いつかれてしまった……。

そして、4時半ぐらいにコテージにいったん戻って、雪祭りを見に行った。様々な雪像を見るのは面白かったが、舞台上でのシヨはかなり微妙だった。村おこしの手法としては、上手くない。

その後、温泉に行く。一日の疲れがとれて、極楽気分である。

コテージに帰って、夜ご飯を食べる。メニューは、鍋。白菜ではなく、ほうれん草と豆腐と人参と肉の鍋である。河合家特製らしい。こういう鍋は初めて食べたが、非常に美味しく頂いた。その日もお酒を飲みながら2時くらいまで語り合った。むしろスキーよりこつちがメインだったのかもしれない。

たのかもしれない。

翌朝は7時に起床。11時くらいから滑りはじめる。若干曇っているが、このくらいがちょうどいい。昨日と比べてあまり上達しない。

今日もスピードを出しすぎて、何度も転んでいた。一度頭を打って、クラクラした。危ないところだった。夕方までに先輩に追い越された……。

帰りの車の中では眠くて仕方がなかった。夜ご飯を名古屋のジヨナサンで食べて、解散。

最後に、箕浦さんと河合さん、山本先輩、本当にありがとうございました。スキーもさることながら、様々なことをお話できて楽しく、またためになりました。

このスキーレクは是非恒例行事にしたいと思います。



# コンピュータとフィールド

情報科学研究科 広木詔三

最近、パワーポイント用の機器を一式購入した。これまではまだスライドとOHPのみしか使用したことがないのだった。

これまで指導してきた院生の多くは、コンピュータの使い方のみな自分でマスターした。私は彼らに教わりたいと思っていたほどだった。

かつてある人に私は宝の持ち腐れだと言われたことがある。コンピュータをほとんど文章作成にしか用いていないからだ。コンピュータの中にはさまざまな機能が搭載されているようだが、私はそれらをほとんど使ったことがない。

メールを使い出したのも比較的遅かった。以前、情報化学学部時代に、学部長から、いまだきメールを使わない人間は首だとか脅かされた経験もある。

何がイヤかと言うと、突然、訳

が分からなくことだ。にっちもさっちもいかない。途方に暮れる。ただ、やみくもに時間が流れる。そういうのは堪え難いことである。

野外ではそういう経験は少ない。会津磐梯山で道に迷ったことがあるが、途方には暮れたことはない。日が暮れようとしているとき、途方に暮れている暇はない。森林の中をやみくもに駆け足したことはあるが、途方には暮れなかった。命に関わるのである。

現在、研究発表はほとんどの場合パワーポイントを使う。学生さん用に機器はそろえてあるのだが、私は使用することがない。パワーポイントを使うためにはウィンドウズのパソコンを使わなければならない。これまたやっかいなことである。数式や統計にはエクセルというソフト

が便利である。そこでかつてウィンドウズのパソコンに没頭したときがあったが、コンピュータの起動の仕方から始まって何から何まで違う。頭の中が混線してくる。また遠ざかってしまった。

私はこれまでマックのコンピュータを使用してきたが、何度か故障で買い替えた。当初は起動とかインストールとかが出来なくて、箕浦さんにSOSを出してその都度救って貰った。かけはしの編集担当の箕浦さんである。つい最近もパワーポイント用の機器を一式購入したことは最初に述べたとおりである。

最近の機器はソフト類のインストールはわりと自動的に出来るように親切になっている。そのまま最後までうまく行くかと思いきや、もう少しというところで何が何だかわからなくなってしまう。暗闇の中で手探りをする感触とは違う。私の頭の中の情報ではなく、コンピュータの中の情報が途切れていくわけだ。このことをコン

ピューターの中のフィールドになぞらえると、ミヒヤエル・エンデの『果てしない物語』に出てくる虚無の世界に飲み込まれたような感じだと言えなくもない。

話は変わるが、私は水戸という当時人口十万人程度のきわめて小さな都市から東北大学に進学した。仙台は比較的大きな都市であった。それでも東京というのは大都会で、行くたびに畏怖を感じたものだった。東京は、スタンダールの『赤と黒』に出てくる若い野心家のジュリアン・ソレルになったような気分させられるものが当時はあった。

仙台から東京へ往復で千円からなかった。当時は学割で半額ということもあった。ただ、鈍行に乗ると片道九時間かかった。高校の同級生が法政大学の工学部に進学し、キャンパスが武蔵野周辺にあった。中央線に乗り、東小金井で降りて彼の下宿まで歩く途中、雑木林があった。雑木林を研究の対象にするなどとは当時は夢にも思わなかった。今ではそのあたりには武蔵野の雑

木林のおもかけはほとんどない。

あるときその法政の友人のところに遊びに出かけたときのことであった。彼は下宿を移ったらしく、会うことができなかった。私が道を間違えたせいかも知れない。私は方向音痴で、大きな空間地図が頭の中で描けないようなのである。でも、仙台から東京に出ると、現場の記憶が蘇る。東小金井の駅を降りると、おおよその彼の下宿の方向が記憶に蘇る。小道を歩くと田畑や家畜小屋や雑木林が記憶と一致してくる。私はフィールドワーカーとして人生のほとんどを過ごしてきたので、森や林で何度も迷ったことはある。でも、都会では迷うというよりも訳が分からなくなる。野外では真剣になり、感覚が研ぎすまされる。都会では標識を探すという別な能力を要求される。

わかった。

ところで、出会いそこねた友人とはどうなったかという。当時、私は仙台の下宿では風呂呂が使えず、銭湯というものに通っていた時代であった。面倒で、ふだん銭湯にあまり行っていないものだから、友人と会えず、暇をもてあまして駅前近くの横町の銭湯に入った。すると、偶然、風呂場で親友に出くわした。長い人生には奇妙な出来事もあ

るものである。話はとりとめもないが、これまでも、このかけはしでも、フィールドで迷ったことは富士山での話や、裏磐梯高原や、さらには海上の森(No.百七三)、土岐市の丘陵(No.百七八)、三宅島(No.百七五、百八九)で触れてきた。野外での遭難は命にかかわる。理学部の野外実習を担当して一度だけ富士山麓を歩いたことがある。そのときはばかりは心配で下見に出かけた。登山道の入り口あたりに風穴があって、観光客も多いのだが、登山道に入ると人の気配がなくなる。巨大

な溶岩も目につく。というわけかヒノキ等の針葉樹が多い。ふと登山道から樹林に入った。例の青木ヶ原の樹海の一画である。ときどき白骨の死体が見つかる。自殺志願者が入るとも言われている。奥の方では自衛隊が訓練の場を使用しているとも聞く。だからこそ自前で下見に出かけたのだ。それなのに、ひとたび樹海に入ると、方向が分からなくなる。磁石がきかないという説もある。でも私は磁石は

もともと使わない。登山道からどれだけ入っただろうか。溶岩の起伏が激しく、真つすぐに進めない。ハッと気づくと、登山道の方向が分からない。慌てると、より深く入り込みそうであった。どれくらい溶岩の上に腰を下ろしていただろうか。どの方向を見ても溶岩の上に針葉樹の世界である。だいたい時間が経過したと思うが、意を決して少しずつ移動を始めた。何のことはない、十メートルほどの距離にすぎなかった。

迷ったり、さまよったりする

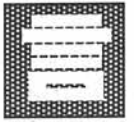
のは、時には命に関わることもある。神経が高ぶり緊張感がある。途方に暮れている暇はない。

それに対して、コンピューターの世界ではさまよっているのはイメージだけである。途方に暮れざるをえない。じっとしてひたひたで解決するということも無い。つい先日、箕浦さんにお出まし願ったのはいいが、一箇所電源が入っていないことがあった。

慣れれば簡単なのは経験的にも分かっている。慣れるまでがいかにかたいへんか。

群馬県の上野村で農業に挑んでいる内山節(たかし)という哲学者がいる。彼は、自分では最初は何も出来なかったと言う。村人に手取り足取り作業のわざを教えてもらって少しずつ作業が出来ようになつたと言う。

車の運転に慣れると、車が自分の体の一部のように感じると言う。コンピューターも使い慣れると、そう感じるに違いない。そうなりたいたいものだ。



# すぎたるは及ばざるが如しー大雪

この冬の寒さと大雪、ここ何年か雪不足に悩んでいたスキー場もリフトまで埋まってしまふ大雪ではどうにも成らない。道も通行止め箇所続出で商売にならない。大雪が恨めしがられている。

豪雪地帯は誠に気の毒と言うほか無い。お年寄りだけで死んでいる人も多いという。そこに雪かきボランティアで行かれる人々の神々しく見えること、本当に尊い。雪の少ない地方に住み慣れている者にとっては、想像を絶する。積もった雪と、屋根から下ろした雪で、家の中は真つ暗、オマケに、雪の重みでみしみし言うのは考えただけで恐ろしい。この大雪で亡くなった人も多い。雨が降っても風が吹いてもすぐ災害、こんなふう

ならないように安心して暮らせるのが本当の国力ではないだろうか。そういう意味で行政の責任は大きい。折しも、外国でもポーランドでは鳩の品評会が行われていた展示場で屋根が崩落して、多くの死人、けが人が出たという報道。一寸前には、ドイツでも屋内スケート場で雪の重みで、屋根が壊れ、子供を含む15人が亡くなっている。ポーランドでの事故の原因はまだ分かっていない。ヒルの管理人は、適切に除雪をしていたと言ってはいるが。

それでも、雪国の人々は、他の心配を余所に、春までは食べ物もあるし、薪も石油も貯えてあると言っていたのは頼もしかった。それでこそ、長年雪国に住み、なんと言われようとそこに

住み着いた人の底力だと思った。ところで、この大雪もその原因は地球温暖化であるという説がある。俄には信じにくいだが、海の温度が高いから、日本海上を渡ってくる低気圧に沢山水蒸気を供給し、結果として大雪になるのだという。そして、今年の雪は例年に比べて重いという。その辺まではそうかなと思うのだが、では何故寒気が続々と切れ

目無くやってくるのだろうか。よく分からない。しかし、酷く寒かったと思えば、昨日(1月30日)のように大寒中に春を飛び越えて初夏の陽気になったところもある。沖縄では、1月に夏日が2日もあったという。そう言われると、地球温暖化の影響もまんざら否定し得ない気がしてくる。(T)

# 天網恢々疎にして漏らさず

ライブドア事件の報道で、彼らは99.9%ばれないと思っていたという。それを見て、この諺が咄嗟に浮かんだ。これは「老子」にある言葉だ。「恢恢」はちよつとなじみが無いが、広いことを言う。天の法網は広大で目はあらゆるだが悪人は漏らさず捕縛する、つまり、悪事は

必ず露見して早晚悪い報いがあることを言う。割合よく聞く言葉だ。それだけ悪事が蔓延しているのか。

ライブドア事件の首謀者達はどうまくやったと思っていたらしい。世間の多くもホリエモンに共感し、あまつさえ応援すらしていた。極めつけは、自民党だろ







う。去年の総選挙に担ぎ上げ、郵政民営化に反対した亀井静香氏の刺客としてはなつた。敢えなく討ち死にしたが、幹事長始め、金融担当の大臣までが無所属で立候補した彼をべた誉めにして応援したのだった。今になって、不明を恥じ、反省している。反省しないよりはいいが、それでカタが付くこととは思えない。何もかも身元は調べられないというのが首相の遁辞だが、こういうマネーゲームを容認し、助長した責任はどうするのか。

まだ事件は進行中で、詳細は不明な点があり、色々な報道を見聞きするに付け、頭の良い連中が、汗もかかず、濡れ手に粟の虚業というのが、全体の印象だ。しかも、ホリエモン自身は何も法律を犯していないと言っているそうだ。聞いただけでは何がいけないのか分からないのも事実。ただ、ウソの情報を流したことは素人にも「そりゃ、聞こえませんが」と分かる。簡単に言えば、結局は嘘を言って株価をつり上げて儲けたということに尽きるのだろう。所詮、全

体、金の亡者共が、右往左往しているような構図に思える（失礼！）。しかし、それにも一定の守るべきルールがあるはずだ。それを法律に書いてないからいいのだ式の発想は、やはり、世間には通じない。昨年フジテレビ事件でも本質はそうだろう。苦々しげに「金さえあれば何でも出来ると思っている」と吐き捨てていた人達の顔が思い浮か

ぶ。当時、ホリエモン達は「何をたわけたことを」とせせら笑っていたのだろう。

報道されたように、何の価値もないような会社を買収し、他に高く売りつけていた彼らには結局悪銭身に付かずだった。こう、断定して良いかどうかは分からないが私はそう思う。まさに、天網恢々疎にして漏らさず。

(T)

## トリノオリンピック

今、冬のオリンピック、トリノオリンピックの真つ最中。今まで、日本選手は鳴り物入りで参加したが、全くの鳴かず飛ばず。4位が最高。表彰台には上がれない。

新聞には、「男子もメダル届かず」などというのがあったが、もう少し言葉に気をつけてもらいたものだ。「男子もメダルに届かず」とか、「男子にもメダル届か

ず」とか。わずかに「に」ひとつのこと。それでも新聞は、それを節約してと言うのかも知れないが、舌足らず、だけならいいが、ひいては、日本語を乱す。

今の時点でメダルゼロ。寂しいけれども仕方ない。ヨーロッパ起源の競技、それをヨーロッパでやるのだから、地の利もあるし…。アメリカ人で、黒人が入賞してさえ大騒動なのだ。この

メダルに届かぬ日本人の状態がある人曰く、「方角が悪い」と。方角はともあれ、地の利はない。今の若者、テレビや新聞記者の質問に怖めず臆せず「メダル」獲得を宣言する。気質も変わったものだと思った。そのように、怖めず臆せず競技が出来るかと言えば、「カチカチだった」などと言うから特別日本人の気質が昔と変わったわけでもなかった。ほつとしたような、がっかりしたような。

今日、テレビで明後日から始まるフィギュアスケートの選手が言っていた。「日本人のパワーを見せれたら」と。NHKテレビの字幕には、ここが「:」が見せられたら」となっていた。いわゆる「ら抜き表現」をNHKが「ら入れ表現」に直したのだ。こんな事が許されるのだろうか。

元々「ら抜き表現」という言い方に偏見がある。ワープロ辞書でも、いちいちそれを指摘する。いらぬお節介だ。今や、これは市民権を得た正式の表現に成りつつある。言葉は変化するのだ。

(T)



# すんでの事で

振り込め詐欺に引つかかるところだった。

こういう事だ。「司法処分廷要請通達書」なるはがきが来た。それにはこんな風に書いてあった。宛名書きは呼び捨てだった。「この度ご連絡いたしましたのは、貴殿のご利用された「総合消費料金未納分」について平成18年2月8日に民事訴訟を受けましたので、下記期日までにご連絡下さい。」とあり、「こちら「総合消費者民法特例法」上、法務省認可通達書となっておりますので、ご連絡なき場合には、本通達書記載の裁判所へ出廷となります。また、司法処分の措置として、給与および賞与、動産物・不動産物の差し押さえを民法156条第1項に基づき強制執行させていただきますゆえ、当局と執行官による「執行書の交付」を承諾していただくようお願いいたします。」とあり、「又本案件に関して取り下げ手続き

を執り行う場合は、下記期日までに当局までご連絡をお願いいたします。

尚、当局は、原告側から訴訟の通達、又、訴訟の正当性を確認する機関であり、当局が金員を要求することは原則としてありません。類似したはがきや通達にご注意下さい。」とし、さらに、※身に覚えがない方でも架空請求業者が貴殿の個人情報悪用し、実際に少額訴訟の手続き(判決が一日で出る裁判。もし放置してしまうと欠席裁判となり原告側の言い分通りの判決が出る)を利用した新しい手口の報告もございます。」とし、さらに、

「万が一身に覚えがない場合早急にご連絡下さい。」  
として、「裁判取り下げ手続きに関するお問い合わせは早急に」とあつて、「出廷場所 東京簡易裁判所裁判部第39民事執行センター 03-5299-2107

(訴訟課)

平日 9:30~16:30 〒103-00

27 東京都中央区日本橋2-16-3 消費者相談室」とあつた。

全く身に覚えのないことだ。今よく読んでみれば不審だらけだが、恥ずかしいことに、あわててしまったのだらう。それは去年、パソコンで、迷惑メールを削除している最中、突然パソコンが暴走し、色々やっっているうちに、何かを承諾してしまつたような事になってしまつたみたいだつた。こんな言い方をすれば、承諾も何もしていないけれども、暴走を止めようとしていたうちにそんなことになつてしまつたらしいということだ。その後、法外な利用料金なる請求書が来て、督促状が来た。そのときは、警察や消費者センターに聞いて放置しておき、最近、その請求書も破棄してしまつた。こんな事があつたので、ひよつとするとそれをネタに揺すられたのかと一瞬思つてしまつたのだ。それで、書いてあつた電話番号に電話した。なかなか出なかつた。やつと出た人が、その分類番

号を言えと言う。そうしたら1時間ぐらいて調べて連絡すると言う。もう出かける時間だったので、出先から電話すると言うとそれは困る、自宅でなければと言う。そうしたらすぐ電話がかかつてきた。なかなか要領を得ない、全く身に覚えがないのでその旨を言つても、裁判を起こされた以上、相手はそれ相当の証拠も持つており、腕こぎの弁護士を抱えているので、簡単にはいかないだらうという。しかし、こちらには全く身に覚えがない、何の請求かと聞くと、パソコンの代金だと言う。そんなところから買った覚えは全くない、どうしたらいいかと聞くと、03-5940-7593 総合法律事務所にご相談しろと言う。そして、自分は「山岡」だと名乗る。ついでになぜ呼び捨てかと聞くと、あなたは被告人だからと言う。

この時点でまだ気がつかなかった。そこに電話をしてしまった。やはりなかなか出ない。出たのは、今度は神田浩司と名乗る。やはり同じように、裁判で

# 投稿

は勝ち目はない。名前を悪用されたのだから、悪用した人を探し出せなければおまえの負けだ。裁判にしないのが一番で、その手続きは、弁護士がやるという。弁護士に特に知り合いもないので、お願いできるかという、やってみよう。そして、被害者救済のため、弁護士費用は国が持つので特にいらぬが、裁判取り下げのためには、簡易裁判所に供託金が要る、それは後から返ってくる。それがいくらかと言えば、相手の訴えの金額と同額だ。相当の高額だ。払込先を聞いて、払うことにした。しかし、郵便振替にしては桁数が一つ多い。払込先の名前も個人名だ。もう一度電話して確かめ、払い込もうとしたが、局長が、金額が多いし、これは払い込んで取り消しが利かないものだから、もう一度確認したらどうですかと言ってくれた。

た。典型的な振り込め詐欺だ。こんな事で2時間棒に振ってしまった。約束も一つキャンセルした。

後で冷静に読めば本当に変だ。「下記期日」といいながら期日は書いてない。電話の相手もせかせる。すぐお金が出来るか、一刻も争う、というようなことを言う。供託金は後で返すと言うが、返還手続きも何も言わない。消費者相談室というのもおかし。本当に助かった。

そのあと、こんなインチキをたくらむ連中が居るかと思うと、町で自動販売機に缶ジュースを詰めたり、建築現場で資材を運んだり、配達に精を出してまともに働いている人を見ると救われたような気になった。

ただ、最初にあわてて電話をしちゃこちゃ言ってくるかも知れない。今までも頼みもしないことで金を請求されたこともあった。今度も、いやなことながら勉強をさせられた。

(毓堂2006・2・13記)

## 教職員委員会活動日誌 (2006年1・2月)

月	日	事	場	所
1月	10日(火)	1月度第1回教職員委員会	IB カフェ	
	12日(木)	映像で学ぶ「日本国憲法」Vol.9	ゆ〜どん	
	16日(月)	1月度常任理事会	ゆ〜どん	
	19日(木)	平和憲章委員会	名大職組書記局・会議室	
	21日-22日	全国理事会・全国教職員委員会	東京・杉並	
	17日(木)	金井先生インタビュー	教育・金井研究室	
	23日(月)	1月度理事会	フレンドリィ南部	
	24日(火)	1月度第2回教職員委員会	IB カフェ	
	30日(月)	1月度第3回教職員委員会	IB カフェ	
	31日(火)	杉山文学研究科長インタビュー	文学研究科長室	
2月	1日(水)	総代会プロジェクト	ゆ〜どん	
	2日(木)	平和憲章制定19周年記念憲法講演会	IB 電子情報館011教室	
	6日(月)	2月度第1回教職員委員会	IB カフェ	
	9日(木)	映像で学ぶ「日本国憲法」Vol.10	ゆ〜どん	
	13日(月)	2月度常任理事会	ゆ〜どん	
	16日(木)	平和憲章委員会	名大職組書記局・会議室	
	17日-19日	初心・初級スキー教室	岐阜県郡上市高鷲町	
	18日(土)	東海地域センター理事会	東海会館	
	20日(土)	2月度理事会	フレンドリィ南部	
	23日(木)	映像で学ぶ「日本国憲法」Vol.11	ゆ〜どん	
27日(月)	総代会プロジェクト	ゆ〜どん		

# 三ユリスに二喝!!

## いけしゃあしゃあと

というか、盗人猛々しいというか、一寸下品な言葉だが、こうしか言いようがない。東横インの建築完成検査後の不正改造、社長は記者会見で、「そんな悪いコトしたかな」と居直りとも言える態度。悪びれた様子もなく、本当に「いけしゃあしゃあと」60キロ制限の所を一寸スピードを出して67、8キロというところくらいかなと言っていて笑ってさえた。まるで罪の意識はない。身障者用の施設や駐車場のスペースを最初の設計図ではちゃんと作っておき、検査がすむまではそれも設計図通り

作ってあったのを、検査終了後取り壊して、客室や物置、ラウンジなどにしていった。然も、そういう設計図まで最初から作ってあったと言うから、徹底的にバカにしている。恰好が悪いからとか、駐車場などいくらも他にがあるからなどというのは理由には成らない。系列のホテルでずいぶんあちこちにそういうところがあるらしい。名前が紛らわしいので、東急ホテルや東急インが抗議を申し込まれたのはお気の毒。この名前もなんとなくまやかしく臭く思えるのはこういう悪事が露見したからだろうか。

まだ次々と系列ホテルの無断改造の報道がつづく。全国121店舗中78店舗で、何らかの法律違反、条例違反があるという。やり得にならないようにきちんとして欲しいと思う。

もう一つ、本当のことはまだよく分からないけれども、耐震強度不足のマンションを売りつけていたヒューザーという会社、建築確認に落ち度があり、解体したり、補強工事や改築するのに金がかかるからと言って、建築確認をした18の自治体に対し

て、139億円の賠償請求をした。ヒューザーが被害者だというのだ。本当にそうなら仕方ないが、何故、この会社のマンションばかりが耐震強度が足りないのだろうか。この社長、当初から自分は悪くはない、一生懸命被害者側に立って保証をすと言いつづけている。しかし、今イチ、納得できない。その言葉が真実なら申し訳ないが、やっぱり、お門違い、言葉が悪いが、盗人猛々しいという感じを持ってしまおう。

(田 2006・1・31記)

## 手のひらを返す

新聞にこんな漫画があった。みんなが手を挙げて一人の人を胴上げしている一方で、その胴上げしていた手を離して下に落とすという構図としてしまっているという構図だ。胴上げされているのは小泉首相、落とされているのがライ

ブドアのホリエモン。まさに、世間はそういう様子。今、ちやほやされている方も何時ひっくり返されるやら。政治漫画には面白いのがある。偽計・偽装・偽証に腹を立てていると、だいたいぶ、だいたいぶという人がい

る。北朝鮮の金正日氏に似た人物が、「日本ばかりじゃないから安心をし」と慰めてくれるというブラックユーモア。

そう言えば、北朝鮮でドルの偽札を作っているということは公然の秘密みたいだ。それが、中国に持ち込まれ、マカオの銀行でマネーロンダリングをしているとか。それでアメリカが怒って、マカオの銀行の取引を停止した。今度はそれに北朝鮮が反発して六カ国協議が延期されるという。北朝鮮の言うことはメチャメチャ。こんなことが通るのだろうか。北朝鮮ではブランド品のタバコの偽物も作っているという。年間20億箱も製造でき、密輸ルートを通じて1億ドル以上の収益を得、合法的な年間輸出額の8%から16%に達するのだそうだ。漫画は、良くできている。

手のひらを返すとは、言わずと知れたことだが、念のために辞書によれば「ガラリと態度を変える」事をいう。今までちやほ

やしてきたのに、見向きもしない、鼻も引っかけないと言うことだ。今の世の中そういうことがよくある。ホリエモンについて言えば、小泉首相曰く、あれは、ジャーナリズムが持ち上げたのだと。ご自分はそれに乗っ

## 体たらく

このごろ気になる言葉がちよいちよいある。いちいち書き留めてないので忘れてしまいが、忘れられないものを一つ。

新しい言い方なのか、間違っていた言い方なのか、新聞の見出しにまでつかわれているので、アレレと思った。標題の「体たらく」だ。このところ問題になっている東横インの社長の言葉。この社長、違法改造が発覚しても初めのうちは大したことではない、60キロ制限のところを67、

ただけというのだろうが、そう無責任なことばかり言っていていいのだろうか。そろそろ、末期症状なのだろうか。どうぞ国民に手のひらを返されないように。

(田 2006・1・31記)

8キロで走っているようなものだと嘯いていたが、問題が大きくなって四面楚歌、記者会見で、「本当に体たらくな自分だったと思います」と謝罪したとある(2006年2月7日中日新聞社会面)。ここに見出しとしても「社長「本当に体たらく」消え入る声で『おわび文』とあった。「体たらく」が「だめな」というような意味の形容動詞として用いられている。ちよつと専門的になって恐縮だが、元来はこ

れは「体たり(＝体である)」が名詞化したもので、「体であること」の意味で、なにかそれを修飾する言葉がないと使にくい。「様子」くらいの意味だ。「なんたる体たらくだ」などと悪いニュアンスで使われて、「体たらく」だけでも「どうにもならないような仕方のない様子」という意味になってしまったということであろうか。しかし、古典的な用法はそうばかりではなく、純粹に「くの様子」の意味で使われているから用心が必要だ。でも、今見たような使い方は一般化しているのだろうか。

ばかばかしいとは思いますが、最近よく聞き耳についているのもうひとつ。例のトリノオリンピック。昨年来、鳥インフルエンザがはやったことも関係あるかもしれない。昨年は西年だった。それで、「オリンピックは一年遅れでやるの?」などという親父ギャグが聞こえてくる。(田 2006・2・10記)

1・2月号  
の感想

## 保育所に期待します

★男女共同参画についての話が金井先生ご自身の実体験を交えて掲載されており、大変勉強になりました。大学の保育所の運営に期待しています【C-LINE】

## 女性の立場に立って男性も

★金井さん（男女共同参画室室長）のお話しはとても勉強になりました。これまでは『どうして保育所を大学内に作るのかな』と思っていましたが、働く女性にとって、この施設はとても重要であることに気づかされました。男女共同参画は女性の立場に立って男性も考えなくてはならないことだと思えます。【まるまる】

## 私も女性、頑張ろう

★金井篤子さんのページがおもしろかったです。私も女性ですががんばろうと思えました。【内藤絵美子】

## 文系の先生の話を知りたい

★金井先生のお話が大変面白かったです。普段、文系の先生のお話を聞く機会がありませんので、もっと文系の先生のインタビューが増えるとうよいなと思います。【K@Z】

## メンターを探せ

★金井先生の特集が面白いし、考えさせられるものがありました。大学の環境整備のことも興味がありました。一番のヒットは「メンターを探せ」でしょう。【鷲見哲也】

## 大いにメンターになった

★金井篤子教授へのインタビューを楽しみながら読みました。一見、自分とは関係無い内容に見えたが、大いにメンターとなる場所があった【ほいほい】

## 授業アンケート結果はこちら

★・トップインタビューの記事が興味深かった。マルセパン工場見学行きたいです。予定空いてるかな：「授業アンケート疑問です？」には、事務の方々が大

## 変な努力をして集計・分析作業

をされているようです。中には矛盾した回答もあるかもしれませんが、統計的なデータを元に授業内容や環境の改善が行われている部分もあると思います。ちなみに<http://www3.jimu.nagoya-u.ac.jp/quest/index.html>で授業アンケートの結果が公開されています。ハウルみに行きたかったです。【suno】

## やそすけライブ行きたかった

★あのやそすけさんのライブがあったとは知りませんでした。次回の企画には参加してみたいと思います。【joyjoy】

意見と  
通信

## 食生活アンケートを

★卒業・修論の時期ですね。修論生・卒業生のこの時期の食生活についてアンケートしてみたいです。【joyjoy】

## あなたの知らない名大を

★「あなたの知らない名大」私は18年名大にいますが、知らないことがいっぱい。そういうのをサブライズとしていろいろ取り上げるといいでしょう：「あなたも知らない生協グッズ（取り扱い品）」「こんなのイイッショ、という品をいろいろ紹介？」逆もいいかもしれませんね。めつたに買われないうだけども、確実に少量は入荷しているもので、こんなひとがこんなことに使ってる：「みたいな特集。絵コンテ（っ）を描く人が、「このパンじゃなければだめなんだ！」と言って入荷している、というような面白い話がないかなあと思いたす。文具とかに流行はあるのでしょうか。私は鉛筆をよく使うのですが、これが高くなってきた変遷とか。【鷲見哲也】

## これからもかけはしを楽しみにしています☆

## Forestが気になる

★リニユール・オープン迫る「Forest」が気になります。いっぺん行ってみよう！あと紙のアンケートをどこに出せば良いのかわかりにくいかな【ほいほい】▼アンケートは学内で届きます。【かけはし編集部】

# 名大生協



## 「かけはし」編集委員会行

..... 出 ..... 折 ..... り .....

○氏 名 \_\_\_\_\_ 組合員証番号 \_\_\_\_\_

○所 属 \_\_\_\_\_ 研究科 \_\_\_\_\_ 専攻・課 \_\_\_\_\_  
学部 \_\_\_\_\_ 学科・掛 (教職員・院生)  
センター \_\_\_\_\_

○連絡先 \_\_\_\_\_ 内線 \_\_\_\_\_

○誌上匿名希望の方はペンネーム \_\_\_\_\_

..... 出 ..... 折 ..... り .....

- ①マルセパン工場見学【3月11日(土)】
- ②豊川海軍工廠爆撃と跡地調査【3月21(火・祝)】

### 参加申込用紙

番号	氏 名	所 属	内 線	年 齢	組合員証番号

①②の参加は保険の関係で年齢が必要ですので必ずご記入ください。

\_\_\_\_\_ アンケートに \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ ご協力願います。 \_\_\_\_\_

第 264 号

クイズのこたえ \_\_\_\_\_

☆今月号を  
読んだ感想

---

---

---

☆記事にしてほしいこと。生協へのご意見やみなさんからの通信をぜひ。

---

---

---

---

---

---

---

---

COOPクイズへの応募、アンケートの回答は、<http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/kakehashi/answer.html> から送信できます。また、e-mail:kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp でも受け付けます。必要事項をもれなく記入してください。





## 大学生協と私

横田 浩臣 (生命農学研究科・教員)



名大生協には学生時代を合わせて45年間お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

私が1961年入学した当時、生協への入会金は400円であった。その年、北海道大学で「七帝戦」が開催されたので、それに合わせて北海道を一周する旅に出た。安宿を泊まり歩いたが、1泊2食の料金は500円であった。それから換算すると、現在の入会金4,000円と比較して価値はそんなに変わらない。これだけの会費で45年間も利用させていただいたことになる。

生協の新規事業の中で私にとってのヒットのひとつは、カフェテリア式食堂であった。そこでは、小食の私には好きなだけの量が選択可能である。戦後の食糧難の時代に育った私であるから、「もったいない」という言葉は生来持ち合わせていた。まずは食べないで残す「もったいない」。それとともに、動物栄養学が専門分野であったので、元来の意味合いとは違ったものも私は持っている。余分な栄養素を体内へ入れないというものである。だが、私の場合、酒だけは基本からずれている……。

体内へ必要以上に摂り入れた蛋白質は分解、排泄されるが、主に炭水化物と脂肪から体内へ入ったエネルギーは、使用されな

い限り脂肪として蓄積される。このエネルギーを消費するには運動しなければならない。食べないで残す「もったいない」と、食べてしまった結果、余分な時間を費やして運動しなければならないという「もったいない」があるということだ。

もうひとつのヒットは書籍利用班であった。立ち上がったときからお世話になっている。書面による注文から現在ではメールによる注文となり、さらに便利になっている。研究室まで直接届けていただき、生協へ足を運ぶ必要もない。私は東山キャンパスから離れた職場に勤務する期間が比較的長かったので、この制度は大変便利であった。定期刊行物は特に便利であった。この制度を利用したための失敗も少しはある。新聞その他のメディアで書評や宣伝を見て注文して読み出し、「少し違うな」、「考えたものと違うな」ということもあった。しかし書籍は手に入れたものの半分も読めば上出来と考えている私は、手に入れる便利さを採ったのである。

大学からそれほど遠くないところに住んでいるので、これからも大学生協を利用させていただきたい。まずはこれまで長く利用させていただいたことに感謝します。

## 名古屋大学の思い出



藤井 直之 (環境学研究科・教員)

神戸大学から理学部附属地震火山観測地域センターに移ってきたのは、15年前の1991年4月だった。異動の直前に手に入って名古屋に持ち込んだ9インチCRTのマックSE 30は、キーボードのクリック音が筆圧の大きいボクにはよくなじんでいた。生協を通じてマックユーザズグループからの情報を送っていただいたりしたことが懐かしく思い出される。それから15年、大学院重点化や大学の法人化など象牙の塔であった国立大学を激しく揺さぶった。そして、地震や火山噴火などの自然災害に対する意識も激しく変化した。着任した当時は、その前年から騒がしくなっていた雲仙普賢岳で、『火砕流らしきもの』がでたと言われている頃で、2ヶ月後の6月3日には43名の尊い命が奪われる事になるとは夢にも思っていなかった。しかし、1995年1月17日未明に発生した兵庫県南部地震（災害を強調する時は、阪神淡路大震災という）は、『地震予知研究に関わる者』にとっては何と言っても強烈な衝撃であった。当時の村山首相がなぜ自衛隊派遣が遅れたのかを詰問され「何分にも初めてのことなので」と答弁したのを今も鮮明に覚えている。寺田寅彦の「災害は忘れた頃にやってくる」という真の意味は、「知識として知っているだけ

では忘れたも同然なのだ」と思い直したものであった。今から考えるとボクらも含めて国全体に危機管理の意識が全く不足していた訳だ。

しかし名古屋地域では、地震防災の意識はまだまだ低くて自分のことと捉える風潮はなかなか盛り上がりなかった。それが激変したのは、2001年11月に地震調査推進本部によりなされた「東海地震の震源域の見直し」と、それによって「地震対策強化地域」が名古屋市を含んで大きく拡大したことがきっかけだった。そして、多くの組織から「地震防災」に関する講演依頼が殺到し防災・減災の意識が高くなった。それまで「ほとんど発動されず、しかも実効が少なからう」と軽視されてきた「大規模地震対策特別措置法」（いわゆる大震法）も、万が一発動された時に備えて対処しておかねばならないという法律の力の偉大さを新たに実感した。そして、名古屋大では災害対策室が発足し、自然災害の軽減に向けて大学として取り組む姿勢が着実に身に付いてきたこと、また生協の協力を得て、新入生や日本語の不得手な留学生に対して防災／減災の意識が次第に強まっていることは真に喜ばしいと思う。

## 生協と私



高木 克彦（工学研究科・教員）

人生の大半を名大生協と過ごした。企業に就職した1年とポストクとして渡米した1年間を除いて、高校卒業以来、40数年以上にわたる年月を生協にお世話になったことになる。毎日の昼食、学用品や教科書・書籍購入から始まって、旅行依頼、コンパ・懇親会など、何から何まで生協に頼って生活してきた。しかし、私にとって、生協と言えばすぐ連想されるほど、食堂が特徴的であり、町中のレストランとはっきり違っている。

思い出せば、大学に入学し、最初に授業を受けたキャンパスは、今の名古屋市立大学経済学部のある滝子地区であった。滝子は旧第八高等学校の跡地のため、老朽化した木造校舎と運動場の他、円墳まである広大な敷地で、あれが生協食堂かどうかさだかではないが、くだんの円墳の上に食堂があった。「天ぷら定食」は、どんぶり飯の上にあじの天ぷらを乗せておつゆをかけた一杯20円の素朴な定食だったが、美味しかったと言う思い出しかない。

2年後から現在の東山キャンパスとなったが、現在の工7号館、IB館のあるところに木造2階建ての校舎があり、講義を受けた。それ以来、現「文サ連」が入っている学生会館で大混雑しながら昼食をとるのがコースとなった。また、夕方、お腹が空

くと、現在と同じ場所にある木造平屋建ての中央食堂で、実験の合間に食べるうどんが美味しかった。しかし、何と言っても、昼食時の混雑は大変なものであった。空腹を抱えて、食事の順番を長蛇の列で待つのはつらい。せめてお昼の食事くらい混雑のない食堂を要求して大学や文部省に陳情したせいか、その後、徐々に、キャンパスのあちこちに食堂が整備されていった。

このように、混雑は次第に改善されてきたが、最近まで、大学生協食堂の持つ特徴に、値段が安く、ボリュームが大きい乱雑と騒音の点で、ちょっとと言ったネガティブなイメージもあった。それが、ここ数年、急速に改善され、静かで落ち着いた雰囲気のある室内、びっくりするような美味しい料理が提供される食堂も営業されるようになった。その最たるものがレストラン「花の木」であろう。生協であっても、企業のお客さんや外国の研究者を招待しても、何の抵抗感もない雰囲気と料理が提供されるのが嬉しい。

そうは言っても、若い学生たちの食事の喧嘩も捨てがたいものがある。場合によって、食事のTPOを選択出来ることがキャンパス内でも可能になったことに隔世の感を覚える。

## 名大生協の平和実現への 絶えざる努力



小林 邦彦（医学部・教員）

私が約23年間、名古屋大学で過ごしたのは鶴舞と大幸のキャンパスで、とくに大幸は僻地で（約千人の学生・院生がいて、決して過疎ではない）、生協としての企画があっても、私たちには遠い世界のことでした。最近インターネットで書籍も注文できるようになり、僻地の不便さはやや緩和されています。

私にとって生協について印象的なことは、平和への運動を持続していることです。毎号の「かけはし」には名大平和憲章が載っています。20年近く、これを掲載していることはたいへんな努力です。

いま63才の私の物心つく頃は、長い戦争が終わり、食べるものはなくとも、みんなが新しい平和な日本を作っていくという理想と希望に燃えていました。「みんなが自分の思ったことを発言して良い」ということが「これからは」という枕詞がついて、新鮮な気持ちで語られていたように思います。戦争の悲惨さ、残酷さ、非人道性、反道徳性の認識は、何ととっても映画からです。年代は正確ではありませんが、「原爆の子」「ひろしま」「きけ わだつみの声」「二十四の瞳」「ビルマの堅琴」などを、窓ガラスがなく「むしろ」を下げて暗くした小学校の

体操場や、お寺の本堂や、村の公民館で見ました。

それ以外にも、書物や写真や劇や講演で（テレビのない時代です）戦争というものを知りました。戦争やその準備で金儲けをする人がいること、人間（成年男子）が直接兵器として肉弾として盾として消耗させられること、他人と少しでも違う考えは悪だという教育がされること、戦争の準備はずっと前から徐々に進行すること、その準備の初期から、それに警告を発した人がいたこと、その人たちは弾圧されたこと、他国を侵略してずっと勝ち続けた国はないこと、などなど。そして、戦争という最大の暴力に対し暴力で対抗しても暴力の連鎖を引き起こすだけだと、ようやく60年前に世界中の人々が共通認識を持つに至り、この地球上から戦争をなくすための装置として国際連合ができ、日本では戦力不保持、交戦権放棄の平和憲法ができたことを。

60年前には世界中の共通認識だったこれらのことが、これから大学に入ってくる学生や大学構成員の共通認識になるよう願います。それが日本の進路を決めます。名大生協が今後も平和実現への絶えざる努力を継続されることを期待します。

# 私と生協とのかかわり

## 大井田 富世（工学研究科・事務職員）

昭和39年（名古屋市地下鉄が名古屋～東山公園まで開通した翌年です。）に国家公務員初級一般職に合格し名大に就職してきて、びっくりしたのがポットン便所で、男女兼用でした。町からきた私には水洗便所でないことが一番辛いことでした。

学生会館が鉄筋コンクリートの2階建てで今の場所にありました。そこには、購買と食堂、理髪店、そして、便所が水洗でしかも男女別々でした。これで一安心です。それから次々に建物が建築されていきました。そんな中、女子トイレの確保にと、組合交渉をし、実現することが出来ました。

時は過ぎ、今度は保育所運動です。学内で初めてのことです。生協の宿舎（四谷寮）の一間に生協の協力の下、無認可保育所を、（女子が結婚し出産しても安心して子育てと職場で、平等に仕事ができるような環境作り）、置く事が出来ました。当初は院生が中心となって「保育所を育てる会」が大きな

うねりをあげ職員組合が舵取りをし、生協施設から学内の組合の部屋の一角に移り、その後学内施設を転々と移動させられながらやっと今のどんぐり保育園が誕生しました。また、一つには生協の委員会（各職場で集まりを持ち身の回りの改善事項を検討）での希望を聞き入れていただいて、生協の引き売り八百屋さんが、職場の建物前まで来てくれるようになり周りの皆が利用するようになりました。また、書籍利用班も出来ました。

忘れていけないことが一つあります。生協での購入が大学の校費で支払えるようになったことです。生協の一存では出来ず、県に申請し、やっと許可が取れたと聞いています。長い間生協を利用させていただきました。ありがとうございます。ちなみに私の生協会員番号190番です。とうとうお別れになりました。さようなら。

## 名古屋大学の思い出



石垣 武男 (医学系研究科・教員)

名古屋大学の思い出というやはり入局したころの古い話になってしまう。

昭和44年12月に名古屋大学医学部放射線科に入局した。新婚旅行を終えて入局したのである。身分は「副手」。いわゆる無給医局員というもの。名古屋はそれまでまったく縁が無かったがひょんなことで放射線科にお世話になることとなった。東京から名古屋に移ったのであるが当時はまだ市内に路面電車が走っておりのにびりした風景がそこかしこで見られた。名古屋に来てびっくりしたのはうなぎの蒲焼が東京とは違うことである。最初は黒焦げのうなぎ？と勘違いしたが食べたら美味しいので一安心した。うなぎは好物であるから。名古屋名物ではキャンパス内の食堂で食べた味噌煮込みうどんである。丼飯と一緒に出てきたが、こんなに美味しいうどんは初めて！といたく感激したものである。

当時の医局は旧臨床研究棟の地下で第一内科と隣り合わせ。薄暗い場所で昼間でも電気がついていて、「さっそく外来診察についでくれ」ということで外来へ。現在の外来棟が完成する直前で当時の外来は現在のエネルギーセンタのあたりにあったのではないかと思う。いかにも古めかしい建物で廊下のワックスの臭いが印象的であった。先輩についてカルテの記述係りをやったものであるが、患者さんがしゃべる言葉が良く分からず悩んだものである。「私はえらい

です」と言うのでその通りカルテに記載して、あとから「あの方は偉い患者さんですか」と先輩に質問して笑われたこともあった。放射線の機器などもこの場所にあった。夜になって「犬の血管造影の実験をやる」ということで薄暗い撮影室で犬を麻酔して写真を撮り現像の手伝いをやらされた。昼間は患者さんを撮影する機械で動物実験をするということは現在では考えられないことである。

当時の病棟は現在でも建物が半分残っている西病棟の5階。脳外科と共通の病棟であった。脳外科の先生方にはいろいろと教えてもらったが、なかでも前脳外科教授であった故杉田先生が病棟を闊歩されていた姿が忘れられない。

「文献を探すなら図書館へ行け」ということで案内してもらった。鶴舞公園に面して、病院玄関の西側にあった。こちらも古めかしい建物であったがよく通ったものである。当時の生協も鶴舞公園に面して学生ホールの中にあっただが、現在の図書館が稼働開始と同時に生協も今の場所に移ったと記憶している。

鶴舞キャンパスの再整備で新しい中央診療棟も完成し、あとは外来棟が新しくなるのが楽しみである。独立行政法人化で前途に様々な課題が山積みしているが、名大医学部のますますの発展を祈って退官のご挨拶としたい。

教職員・院生版生協だより

## 送別特集号

発行 名大生協理事会  
編集 名大生協教職員委員会  
☎ 学内線 7540, 学外線 781-1111

# かけはし

## それぞれの思い出

### —退職される教職員の方々から—

この春もまた、多くの教職員の方々が定年（停年）を迎えられ、名古屋大学を去って行かれます。長い間、ご苦勞様でした。みなさまにとって名古屋大学で過ごした年月は、人生の貴重な時間であったことでしょう。

今回、みなさまの名古屋大学で過ごした「それぞれの思い出」を、寄せていただくことができました。みなさまの貴重な体験を教訓にさせていただきます。ありがとうございました。

なお、私共の「寄稿のお願い」の時期が遅くて、今回「時間がないので寄稿を辞退する」旨連絡をいただいた方もいらっしやったことを付記します。ご迷惑をおかけしました。

2006年3月

名古屋大学消費生活協同組合・教職員委員会

#### 退職されるみなさまへ

長い間名大生協の組合員として生協をご利用・ご支援いただきましてありがとうございました。みなさまからお預かりしています出資金を活用して生協の運営を行ってまいりました。

名大生協では、退職されるみなさまに「名大生協後援会」への加入・移行をお勧めいたします。後援会員は、退職後も引き続き生協のお店や各種サービスをご利用いただけます。詳しいことは、下記組合員コーナーまでお尋ねください。また、名大生協を脱退されるみなさまには出資金をお返しいたします。

「後援会」への加入、および脱退の手続きは、お手数ですが印鑑と組合員証、また、「出資金預り証」の発行を受けた方はそれも一緒に持参の上、組合員コーナー（北部厚生会館2階、内線7540）までお越しください。